



神父のつぶやき

カトリック甲府・塩山教会 主任司祭
白木 信一

昨年の「世界青年の日」教皇メッセージに次の一文があった。

「イエスはいいけど、教会は嫌」と、あたかも一方が他者の代替であるような発言をよく耳にします。教会を知らなければ、イエスを知ることはできません。その共同体の兄弟姉妹を介さずに、イエスを知ることはできません。信仰の教会的次元を生きていなければ、完全なキリスト者とはいえません。

「イエスはいいけど、教会は嫌」と教皇様が指摘されているが、多くの場合「イエスはいいけど教会の人々は嫌」との意味で発言しているように思える。教皇様が述べられている「教会」は「普遍教会」の意味であり、〇〇教会という自分が知っている、あるいは所属している教会—これらは「普遍教会」に対し「地方教会」とか「部分教会」という用語で分類している—の意味ではない。この意味で、教皇様は「教会を知らなければ、イエスを知ることはできません」と述べられていると思うのである。

かつてある小教区の信者さんから、「私は神さまを信じて家で祈っているから、教会に行かなくてもいい」という方がいらっしゃる、と聞いたことがある。教会抜きにキリスト教の信仰を生きることにはならないのだが、こういう人達のような勘違いについても指摘されているのでは、と勝手に思ってしまう。

教皇様が「教会を知らなければ、イエスを知ることはできません。」と述べる真の意味を、私たちはもっと深く理解する必要がある。そうでなければ教会の信仰を生きているつもりでも、自己流の信仰を生きることになってしまう。イエスのことを知識として知るには、いろいろな方法で知ることができる。しかしそれは、偉人の一人として知ることはできても、信仰の対象としての、すなわちキリストであるイエスを知ることににはならない。それではキリスト者とは言えないということだ。

信仰宣言の中で「教会を信じます」と告白しているのだが、いったい私たちはどれだけ「教会」のことを知っているのか。「教会はキリストにおけるいわば秘跡」と「教会憲章」が述べていることを、どれだけ理解できているかが、どれだけ教会を分かっているかに関わってくる。それは、教皇様が「信仰の教会的次元を生きていなければ、完全なキリスト者とはいえません」と述べられていることに繋がってくる。

私たちは「部分教会」の意味で理解している教会を、「普遍教会」の意味で理解しているつもりではないだろうか。だから、どこかで「いつもこうしてきた」ことから、なかなか抜け出せないでいるのかもしれない。信仰の感覚、教会の感覚、福音の感覚というものを磨いていくという意識が必要ではないだろうか。教皇様のおっしゃる「完全なキリスト者」となっていくために。





おしらせ



1 ミサ中止のお知らせ

現在、新型コロナウイルス感染症・オミクロン変異ウイルスによる感染が拡大していることから感染防止の観点より2月1日から2月13日（日）まですべてのミサ（初金、外国語を含む）が中止となります。

2 2022年信徒大会の日程の変更

ミサ中止の決定と同じく、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため2月6日（日）11：30～予定されていた「2022年度信徒大会」が2月27日（日）11：30～となりました。サンタルチア講堂で行う予定です。信徒大会は、小教区共同体の運営に対して、教会委員会からの報告等に基づき、信徒の皆様のご意見をお伺いし、教会委員会で審議し皆様のご意見を反映させ、より良い共同体運営のための大事な会議です。今年は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、定員は60名となります。

3 2022年度司祭人事異動のお知らせ

横浜教区の2022年・司祭人事異動が発表されました。

甲府・塩山主任司祭の白木信一神父様が、松本教会に異動となります。

なお、芹沢博仁神父様（藤沢教会）が着任される予定です。

4 枝の回収

昨年のソテツの葉は、2月になりましたら回収のための箱を聖堂入り口に設置いたしますので27日（日）のミサ後までに入れて下さい。期日厳守でお願いいたします。

5 世界病者の日

2月11日は、フランスのルルドの洞窟に「無原罪の聖母がベルナデッタに初めてご出現された」日を記念し、聖ヨハネ・パウロ2世により1993年に制定されました。ご病気の方がご自身の苦しみや困難を慈しみ深い神に捧げ、教会のためにお祈り下さっていることに感謝し、ご病気の方のご回復とために祈りと必要なサポートを行いましょ。毎年「世界病者の日」には、教皇メッセージが発表されます。（別ページ掲載）

6 ミサ出席にあたっての事前検温のお願い

新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、ミサに出席される方は、当日自宅にて検温をお願いすることとなりました。普段より体温が高い、また体調がすぐれないなどの場合は、ミサへの参加自粛をお願いいたします。皆様のご協力をお願い致します。

7 きずなの会 お休みいたします。

8 典礼委員会 2月19日(土) 9:00 ~ センターホール

9 地域福祉委員会 お休みいたします。

10 広報委員会 2月27日(日) 14:00 ~ センターホール

～教会維持費および墓地・納骨堂管理費の納入について～

教会維持費および墓地・納骨堂の管理費は、下記の口座へお振込いただけます。

月定献金振込先(教会維持費)

山梨中央銀行 本店営業部 普通預金 188674

墓地・納骨堂管理費振込先(毎年1月～5月中に)

山梨中央銀行 本店営業部 普通預金 1402890

受取人(宗)カトリック横浜司教区甲府カトリック教会

.....

●

関係団体などからのお知らせ

NPO法人子どもサポートやまなし

①運営委員会 2月15日(火)18時30分より、サンタルチア講堂で行います。

②学習会今月の学習会は、2月13日(日)、2月27日(日)の13時30分より山梨カトリック福祉センターで行います。



2022年第30回「世界病者の日」教皇メッセージ
「あなたがたの父があわれみ深いように、あなたがたもあわれみ深い者となりなさい」
(ルカ6・36)
愛の道にあって、苦しむ人の傍らにいる

親愛なる兄弟姉妹の皆さん

30年前、聖ヨハネ・パウロ二世教皇が世界病者の日を制定したのは、神の民、カトリック医療施設、そして市民社会が、病者と彼らのケアにあたる人々の支援の必要性への認識を高めるためでした。

この間、世界中の地方教会で実現してきたことを、主に感謝します。さまざまな進展がありましたが、すべての病者が、なかでも貧困と排除のもっとも激しい地域や状況にある人々が、必要な医療ケアを受けられるようになるには道半ばです。また、十字架につけられ復活したキリストと結ばれて病の時を過ごせるような司牧的同伴も十分ではありません。第30回世界病者の日-その締めくくりの祭儀は、パンデミックのためにペルーのアレキパではなくバチカンのサンピエトロ大聖堂で行われます-を通して、病者とその家族への奉仕と寄り添いを深めることができますように。

1. 御父のようにあわれみ深く

今回の第30回のテーマとして選ばれた「あなたがたの父があわれみ深いように、あなたがたもあわれみ深い者となりなさい」(ルカ6・36)は、まずわたしたちの視線を「あわれみ豊かな」(エフェソ2・4)神に向けさせます。いつだって子らを、たとえ子どもたちが背を向けようとも、父の愛で見守ってくださる神です。まさに、あわれみとは神の別名であり、それは偶発的に生じる感情としてではなく、神のすべてのわざの中に存在する力として、神の本質を表しています。それは強さであり、同時に優しさでもあります。だからわたしたちは、神のあわれみには父性と母性(イザヤ49・15参照)の二つの側面が内包されているのだと、驚きと感謝をもって断言できるのです。神は、父の強さと母の優しさをもってわたしたちの面倒を見ておられ、聖霊によって新しいいのちを与えようと、たえず強く願っておられるからです。

2. 御父のあわれみであるイエス

病者に注ぐ御父のあわれみ深い愛をあかしする最高のかたは、神のひとり子です。福音書は実に多くの箇所、さまざまな病気を患う人とのイエスの出会いを伝えています。イエスは「ガリラヤ中を

回って、諸会堂で教え、み国の福音をのべ伝え、また、民衆のありとあらゆる病気や患いをいやされた」（マタイ4・23）のです。次のような問いがわきます。使徒は福音の告知と病者のいやしのために師から遣わされた者ですが（ルカ9・2参照）、なぜイエスは、使徒の宣教において第一の任務とするほどに病者に対するケアを特別視していたのでしょうか。

20世紀の一人の思想家が、一つの理由を示唆しています。「痛みはまったき孤立をもたらし、まさにこのまったき孤立から、他への訴え、他への嘆願が生まれる」。病によって肉体のもろさや苦しみを味わうと、心も沈み、不安がつわり、次々と疑問がわいてきます。起きること一つ一つの意味を問い、すぐに答えを得ようとしています。これについては、今回のパンデミックにおいて、集中治療室で孤独に末期を迎えた多くの患者を思い出さずにはいられません。もちろん、献身的な医療従事者たちのケアを受けてはいましたが、最愛の家族や、現世での生活でいちばん大切だった人たちとは離されたままでした。だからこそ、御父のあわれみであるイエスの模範に倣って、病者の傷になぐさめの油と希望のぶどう酒を注ぐ、神の愛のあかし人の存在が重要なのです。

3. キリストの痛みを負うからだに触れる

御父のようにあわれみ深い者となりなさいというイエスの呼びかけは、医療従事者にとって特別な意味があります。わたしが考えているのは、医師、看護師、検査技師、病者の介助や介護のスタッフ、そして苦しむ人のために貴重な時間を割いてくれる多くのボランティアのことです。親愛なる医療従事者の皆さん。愛と技能をもって病者の傍らで務めておられる皆さんの奉仕は、職業という枠を超え、使命となるのです。キリストの痛みを負ったからだに触れる皆さんの手は、御父のあわれみ深いみ手のしるしとなるはずです。皆さんの職業の特別な尊さと、そしてそれに伴う責任とを、どうか心に留めておいてください。

医学の、とくに近年の進歩の恵みを、主に感謝しましょう。新たな技術によって数々の治療法が開発され、患者に大きな利益をもたらしています。古いものから新しいものまで、さまざまな病気の撲滅に貴重な貢献をなすべく、研究が続けられています。リハビリ医療は、その知見と技能を著しく発展させてきました。だからといって忘れてはならないのは、患者それぞれが、その尊厳と弱さを含めて唯一無二の存在であることです。患者はつねにその人の病気よりも大切に、だからこそ、どのような治療法も、患者の話に、これまでのこと、懸念、不安に、耳を傾けないままなされてはなりません。回復の見込みがない場合でも、ケアはつねに可能であり、なぐさめを与えることはつねに可能であり、病状にではなくその人に関心を示しているという寄り添いを感じてもらうことはつねに可能なのです。ですから医療従事者には、専門課程の間に、患者に傾聴するすべと、患者とのかかわり方を身に着けることを期待しています。

4. ケアにかかわる施設——あわれみを表す家

世界患者の日はまた、ケアにかかわる施設に着目するにもよい機会です。何世紀にもわたり、患者へのあわれみに駆られてキリスト教共同体は、無数の「よいサマリア人の宿屋」を開設してきました。そこに迎えられケアを受けることができるのは、あらゆる病気の患者たち、とりわけ貧困や社会的排除から、あるいは特定の病状から治療が困難で回復が見込めない人たちです。そうした状況では、子どもや高齢者、そしてもっとも弱い立場の人たちの負担がもっとも多くなります。多くの宣教師、御父のようにあわれみ深い者たちは、福音をのべ伝えつつ、病院や診療所やケアする施設を建設

していきました。どちらもが尊い事業であり、二つを通してキリスト者の慈善の愛は具体化し、弟子たちによってキリストの愛があかしされ、信用を得ていったのです。とくにわたしが思い起こしているのは、地球上でもっとも貧しい地域の住民のことです。そうした地域では、リソースは限られてはいても、可能なことはすべてしてくれる医療施設にたどり着くのに、長距離を移動しなければならないことも多々あります。この先もやるべきことはあり、十分な治療を受けることが贅沢でしかない国もまだあります。貧困国では新型コロナウイルスのワクチンが入手できないことや、さらにいえば、もっとずっと一般的な薬で対応できる病気が治療できないことが、その顕著な例です。

この文脈において、カトリックの医療施設の意義を今一度訴えたいと思います。それらは保護され維持されるべき貴重な宝です。もっとも貧しい病者と、完全に見捨てられた境遇に寄り添うことで、その存在は教会の歴史を浮き彫りにしてきました。医療を受けられない兄弟姉妹、あるいは十分なケアを得られない兄弟姉妹の叫びに耳を傾け、彼らに奉仕するために身をささげてきた修道会創設者が、どれほど多くいたことでしょうか。現在もなお、先進国においてさえ、その存在は恵みであります。必要なあらゆる専門性を踏まえた身体のケアに加え、患者とその家族を第一の関心事とする愛も、つねに差し出しているはずだからです。使い捨ての文化が広がり、必ずしもいのちが、歓迎され生かされるに値するものだと認められていない今日、あわれみを表す家であるこれらの施設は、すべての人間の生命——もっとも弱い存在であろうとも——をその発生の瞬間から自然な死に至るまで、保護し世話をする模範となりうるのです。

5. 司牧におけるあわれみ——いること、近しくあること

ここ30年で医療司牧（パストラルケア）は、必須の奉仕としての認知度が高まったと思います。貧しい人——病者は健康状態において貧しい人です——が苦しむもっともひどい差別が霊的配慮の欠如なら、わたしたちは彼らに対し、神の寄り添い、神の祝福、神のこぼれ、秘跡の執行、信仰における成長と成熟の道への促しを差し出さずにはなりません。これについて、皆さんに覚えてほしいことがあります。病者に寄り添うことや、彼らに対するパストラルケアは、専門的にそれに従事する一部の牧者だけの務めではないのです。病者を訪問することは、キリストからのすべての弟子に対する要請です。自宅で訪問を待つ病者や高齢者は、どれほど多いことか。なぐさめという奉仕の務めは、「わたしが……病気のときに見舞（ってくれた）」（マタイ 25・36）というイエスのこぼれを心に留めながら行う、洗礼を受けたすべての人の責務です。

親愛なる兄弟姉妹の皆さん。わたしはすべての病者とその家族を、病者のいやし手、マリアの執り成しにゆだねます。この世の痛みを身に受けておられるキリストと結ばれて、意義となぐさめを見いだし、自信をもつことができますように。すべての医療従事者のために祈ります。彼らがあわれみ深い者となり、患者に対する適切なケアだけでなく、兄弟愛からの寄り添いに努めることができますように。

すべての人に、わたしは愛を込めて使徒的祝福を送ります。

ローマ サン・ジョヴァンニ・イン・ラテラノ大聖堂にて

2021年12月10日

ロレトの聖母マリアの記念日

フランススコ

(カトリック中央協議会 HP より)



主日ミサ 該当ブロック表



日	時間	場所	該当ブロック
2月 6日(日)	中止	聖堂	なし
		講堂	なし
2月 13日(日)	中止	聖堂	なし
		講堂	なし
2月 20日(日)	10:30~	聖堂	山城・峡南ブロック
		講堂	西ブロック
2月 27日(日)	10:30~	聖堂	中央・北ブロック
		講堂	東・南ブロック



今月の教会カレンダー（典礼暦・外国語ミサ・行事等）



2月 4日(金) 初金ミサ	中止	
6日(日) 年間第5主日	中止	
13日(日) 年間第6主日	中止	
20日(日) 年間第7主日	10:30 ~	ミサ(該当ブロック)
	12:30 ~	韓国語ミサ(한글)
	15:00 ~	スペイン語ミサ(Español)
27日(日) 年間第8主日	10:30 ~	ミサ(該当ブロック)
	11:30 ~	信徒大会
	14:00 ~	英語ミサ (English)
3月 2日(水) 灰の水曜日(四旬節)	10:30 ~	ミサ
4日(金) 初金ミサ	9:30 ~	ミサ
6日(日) 四旬節1主日	10:30 ~	ミサ(該当ブロック)
	14:00 ~	ベトナム語ミサ(tiếng Việt)